

子供と離れて 12 年

K・T（女性、兵庫県）

1. 別居に至った経緯

私は 2004 年 7 月上旬に当時住んでいた、東京の品川児童相談所からの連絡により当時 2 歳半であった子供が（女兒）施設へ一時保護～子供の父親の所へ永久別居になってしまいました。

別居に至った経緯は私のアルコールにありました。40 代後半で初めて出産した子供の育児について、児童相談所や保健所へ相談に行き妊娠中は止めていたアルコールを子供の育児ストレス等により再飲酒するようになってしまい、当時、母は他界して父も 70 代後半、育児をサポートして貰える身内もなく、徐々に子供に当たるようになってしまいました。保育園やファミリーサポートは利用していましたが、子供と 2 人きりになるとイライラしていました。

当時夫（現在は離婚している）は残業が多く、夜、週末の 1 日は育児に協力してくれました。私は当時このままでは子供をどうにかしてしまいそうだという不安から、色々な所へ相談に行き、児童相談所へも何回か行き、夫とも一緒に足を運んだこともありました。その後、児童相談所からは時々連絡があって「最近はどうですか？」と聞かれていましたが、子供が 2 歳半になった頃に、子供も活発になり、高齢で体力のない私は手に負えない状況になってきて、区役所の福祉課や、保健所、児童相談センターにも育児の相談をしていました。そして 2004 年 7 月上旬に急に児童相談所の係りの男性から「明日お子さんを連れてきてください。」と言われて翌日児童相談所へ子供と 2 人で行き「区役所等から通報があったので、虐待ということで、施設に一時保護します。」と言われました。

夫は以前から「施設に子供を預けるのなら離婚して関西の父親の所で一緒に育てる。」と言っていたので、私はこの事は内緒にしていました。子供は乳児院に 10 日間程預けられて、その間には児童相談所の職員、保健所の担当者、私と夫の 4 人での話し合いがあり、夫は今回ばかりは、子供が家に戻ってきてもまた同じ事の繰り返しになるので、「(私の) 病気が治るまで別居して、あくまでも一時的に、関西の父親（当時 65 歳、義母は他界）と一緒に子供を育てたい。」と言っていました。私としてはとても不安でしたが、児童相談所の職員はそちらに賛成しました。そして、私には「あくまでも病気が治るまでの一時的なことで、もしも将来裁判所で同居の調停等を行う場合は、同席します。」とイラスト入りのパンフレットを渡されました。そして子供は夫と共に、関西の実家に行きました。

私は別居後にすぐに、精神科へ行き、脳波検査と CT、MR の検査をして貰ったところ脳がアルコールにより委縮して、凄い癲癇波が出ていました。医者からは、「お酒を止めないと痴呆症になりますよ」と言われて怖くなり、その日を境にピタッと止めることが出来ました。

2. 子供の家のすぐ近くへ引っ越し

その後 2005 年 5 月に関西の子供の家のすぐ近くへ引っ越ししました。子供は義妹が 1 人で住んでいた 4LDK のマンション（名義は義父）に同居していました。義父は掃除、洗濯を毎日していて、週末に実家へ帰っていました。その後はしばらく義妹との確執もあり、子供との会う時間が減ってきて、2006 年の 1 月から夫婦間和解調停と面会交渉（当時）を申し立てました。東京の児童相談所へは現状を話し、引っ越ししてから私の父と「子供と会う時間も減っているし、このままだと当初の約束（病気治ったらやり直す）と違う。」と抗議をしに行きましたが、担当者は「相手側の家族が間に入るとこちらは何もできません。もし同居調停を行うのであれば、現在住んでいるところの児童相談所へ経緯を連絡しておきます。」と言いましたが、地元の子供センター（児童相談所）には東京からの連絡はなかったと聞きました。事情を話しても素っ気ない対応をされました。

調停は女性弁護士を 2 人依頼して、相手側からは離婚調停が申し立てられました。結果、月 2 回会う。その他クリスマス、正月、子供の日、子供の誕生日等は 2 人で協議してできるだけ会う回数を増やす。ということになりました。

私が所属していた断酒会の代表者の意見書や、私自身がアルコール依存症であったことから、今の段階では調停離婚できない。もし再度離婚を考えたら、次回は裁判に進む。と聞きました。保育園の行事参加を希望しましたが、「父親と子供の関係を大切にしたいから」という訳のわからない理由で却下されました。

また相手側は連れ去りを心配して毎回 3 人で会うと言ってきました。後から、依頼した女性弁護士に詳しく結果についての質問に行ったところ、「状況が変わったんです。」と言われ、釈然としない気持ちで一杯でした。私の心には「病気治ったらやり直す。」と夫も強調していたこと等納得できずにいました。

その後は 3 人で土日のうちどちらか月 2 回朝から遊園地やその他テーマパーク等へ出かけました。私はその都度早起きしてお弁当を作って行きました。子供が小さいうちは夫が抱っこをしてただ観ているだけの様な時もありました。子供は 4 歳位になった頃に、プールでの着替え等を女性更衣室で着替えたい。と意思表示していましたが、夫は無視していっ

も男性の方へ連れて行ってしまいました。あるとき、見かねた私が水着を用意して、更衣室の前で引っ張り合いの大騒ぎになり、係りの人と事務室へ行ったことがありました。係りの男性は呆れていましたが、それでも夫は相変わらず、無視してその後も男性の方へ連れて行きました。

その後 2009 年に子供が小学校 2 年生の時に学校で、インフルエンザが流行り、急に前日になって夫から「これ以上会社を休めないから、朝から仕事が終わるまで、子供を預かって貰えないか？」と連絡があり、年間 10 日間程、私の家で子供と一緒に過ごすことが出来ました。子供には、私が大変高齢で出産したことや、今までの経緯（お酒のこと等）を話しました。子供はある程度義妹や夫からは聞いていた様でしたが、私がお酒を飲んで子供に辛く当たったりしたことや、東京での保育園のこと等は全く覚えていないと言っていました。私はほっとしました。

3. ガン見つかる

私は 2007 年に乳がんが 2 か所見つかり、右胸全摘手術を受けていて夫、子供もお見舞いに来てくれたので、傷痕も見たいというので見せました。また、私の実家の父が 80 歳で肺癌の為に亡くなりました。その時にも、夫、子供が父の入院している病院へお見舞いに来てくれて、告別式にも参加してくれました。

4. 子供を放課後週 2 回家で預かる

2011 年には夫から連絡があって、子供が新学期から 4 年生になり、学童（夜 7 時迄）が無くなるのでお金（ファミリーサポートに払う）が勿体ないから、放課後週 2 回程、預かって貰えないか。」と連絡があり新学期から私の家で預かる様になりました。それまではずっとファミリーサポートの人に学校に迎えに来てもらってその人の家で晩御飯を食べていたそうです。

子供と 2 人きりで、家で TV を観たり、宿題したり、長期休みには朝 8 時から預かっていたので、遊園地や映画を観に行ったりして、子供も学校のこと等、色々と話をしてくれて、楽しく過ごしました。最初子供はお行儀があまりよくなかったのですが、途中から玄関で靴を揃えたりするようになりました。

5. 家にはもう子供を預けないと言われて

2012 年の 4 月 16 日に子供の小学校の授業参観に周囲の強い勧めもあり、通常の服装で廊

下で観ていたところを、後からきた夫に「こういうこと困るんだけど・・・」と注意されました。私は子供から日時等は聞いていて、今まで公には運動会は小学校になってからはずっと毎年行っていましたが、他の行事はわからない様に変装して観にっていました。

以前から私も運動会以外の行事も見学したいという意向は夫に何回か伝えていましたが、理由も言わず、「勝手に来ないでほしい。」の一点張りでした。学校に子供の忘れていった宿題を届けた時も後から「勝手に学校に連絡したり、行ったりしないこと、次回そういうことがあったらもう家に預けません。」とメールが来ていました。学校の先生とも挨拶をしたこともあり、4年生の担任の先生とは電話で話もしました。教頭先生自身も私の事情を説明すると「家でも預かっているのに何故お父さんは反対するのでしょうか。」と不思議そうに言っていました。そしてその日の夜に夫から凄いい怒りメールがきました。

「今日学校へ行ったこと限度を超えています。最近調子に乗りすぎです。キーンとなると何をするかわからない人にこちらの生活圏に入ってきて欲しくはありません・・・この状況でしたら、今後はそちらの家に預けません。家に預けたのは最大限の譲歩です。調停条項違反です。」という様な内容でした。私は「子供も自ら行事予定は教えてくれているし、来てほしいと言っています。」と返信しました。しかし、その日からもう子供を家に預けなくなりました。この時子供は私と電話で連絡した時に「ママのところに行きたいとパパに言おうと思ったけれども、怖くて言えなかった。」と話していました。私は今でも、何故この時、直接夫と話をしに行かなかったのか。とても後悔しています。

周囲に間に入って貰える人も無く、メールだけのやり取りになりました。それから少し経って、子供に「元気？」とメールすると「学校に行くと嫌な気分になります。理由は言えません。この事は誰にも言わないで下さい。」というメールが届き、心配になった私は思い切って、子供に会いに行きました。そして子供から学校で「臭い、ウザい。」と言われてることを知り、子供が「部屋に入って。」と言うので、何年かぶりに子供の住んでいる部屋に入りました。飼っている犬の悪臭と、物が散乱したゴミ屋敷の様な状態でした。子供の家にはその後3回程入りました。

6. 裁判所でのやりとり

その頃は以前依頼していた女性弁護士に相談に行き、面会も月1回ファミレス1時間程度に減らされてしまったので、経緯を話して後に子供の住んでいる部屋やベランダ、ゲージに入って痩せ細っている犬の写真を見せました。私は思い切って、再度面会調停を申し立てて、2回目からはその弁護士に依頼しました。その間、子供にも「部屋の掃除はおじいちゃんにお願いできないのか？パパは片付けてくれないのか？」と聞きましたが、「パパに

言っても部屋は片付けてくれないし、自分一人ではどうしようもない。」とっていました。

私は色々な人に相談をして、調停でも写真は上申書を付けて、調停の段階では相手側に見せないで下さいと裁判所へ提出していました。また、義父はその頃、1人暮らしをしていて、この件を連絡して「子供の住んでいる部屋を片付けに行っていただきたい。」とお願いをしましたが、「勝手に入れないから、息子に聞いてから」と言われ、調停の時に、事情を話して「私が家の片付けをしたい。」と相手側に伝えてもらいましたが、「勝手にこちらの生活圏に入ってきて欲しくない。」という理由で断られました。

私は一刻も早く子供の環境が良くなり、学校でのイジメが終わって欲しいと思い、2012年の7月頃からは撮った写真を持って児童相談所や、保健所へ行き、話をしましたが、「部屋の中のことは何とも言えませんが、共用部分のベランダのゴミについては何らかの方法で検討します。」と言われ、子供の新学期になっても益々部屋が酷くなっていったので、市の母子支援と、ファミリーサポートセンターへ連絡したところそちらからすぐに児童相談所、保健所へ連絡があり、相手側の所へも連絡がきました。

児童相談所は子供の学校へ行って、子供と1時間程話をしたそうです。そして相手側もやっと部屋を片付け始めて、子供のイジメは終わりました。子供とは、面会の時、7月に部屋がちっとも片付かず、学校へ行くのが憂鬱だということで、子供がもし賛成だったら、中学も以前2年生まで行っていた学区の中学に行かれるからという理由で私と一緒に暮らさないかと提案してみましたところ、子供の方から「お父さんと暮らしているとクラスの友人から変なこと言われるのでお母さんと暮らしたいです。」「お母さんは暴力はふるってないです。お父さんはすぐどなるのでこわい。」と書いてくれた用紙は今でも大切にコピーもして保存してあります。この時、子供に「気持ち変わらない？」と聞いたところ「変わらへん。」と返事がありました。その後イジメが終わり、子供も私に「(両親の)どちらに行こうか迷っている。」という返事があり、最終的には「ママと暮らしても土日は仕事なので、一緒にアウトドアとか行かれないから」という理由を子供から最後に聞いて気持ちも変わってしまいました。

裁判所では相手側から離婚調停を7月から申し立てられていて、理由は8年間程の長期別居が理由でした。面会調停は私が子供は女の子だし、現在は父親と2人暮らしで、部屋の状況もよくないから、今後は以前の様なせめて週1回の面会にしたいと希望して、書類も所属していた子供と引き離された当事者の団体の方にも協力していただき、弁護士にも相談しても全く月1回のファミレス1時間の面会から進展しませんでした。

相手側の言い分は、「離婚したら月1回でよいだろう。」「子供と勝手に会っているから。」

等と言う理由でした。調停員、調査官、書記官の前で子供からきた携帯メールを見せても目を背けられました。

離婚調停は不成立になりました。調査官調査の結果もあまり期待できず、とても不安になってきました。2013年1月に4回目の面会交流の調停があり、そこで私は義父と前日会った時に、「自分が子供の部屋を片付けたり、今はできないから、子供ともっと頻繁に会って貰いたい。」と聞いて、そのことも調停で伝えたところ、若い女性調査官から「おとうさん（義父）は関係ありません。」という言葉が返ってきて、3人係りで（調停員、調査官、書記官）にも私の主張を無視されました。私はもう我慢の限界にきてしまい。「こちらのいうことを全く聞いていただけないようでしたら、子供と直接面会について話をするので、調停は取り下げます。」といい、途中退席してしまいました。

その後私側の女性弁護士からは「あなたとの信頼関係が無くなったので、辞任させてもらいたい。」と連絡があり、電話をすると「明日から出張で帰ってくるのが遅くなります。」と大変一方的に言われました（結果的に辞任されてしまい、その後その女性弁護士は男性当事者の妻側の引き離しに加担してしまいました）。2月になって私は裁判所へ面会調停の取り下げに行きました。知り合いの家族のサポートをしている会の方から裁判所宛てに、裁判所へ対しての批判等の意見書も書いて貰い、それも後に提出しました。

その後しばらくして、相手側から離婚訴訟がきました。やはり内容は長期別居や過去の私のアルコールでの行為への事柄を理由にしていました。相手側は私が勝手に児童相談所へ行ったことや、今までわからない様に変装までして子供の行事を見学していたことがよほど気に入らなかったようです。

7. 離婚訴訟の答弁

相手側からきた離婚訴訟には、「自分の現在住んでいるマンションは賃貸であり、」等と嘘が書かれていましたので、その点は、法務局へ行き、地番を取ってきました。私は裁判所へ行く時に、以前と全く雰囲気の違いのスーツを着てイメージを変えていったところ、相手側弁護士も初めて顔を合わせた私を観て、驚いた様子でした。

子供との面会は相変わらず月1回でしたが、その時確か3月頃に子供に「またパパから離婚って言ってくるけどどう思う？」と聞き、ノートに子供の気持ちを書いて貰ったところ、「もう仲良くなると無理っしょ～。自分の好きな様にすれば～」と書かれて、私は今後相手と争っても子供が間に入って余計に傷つくと思い、離婚を決心してしまいました。

そして、4月に市役所へ行き、離婚用紙に自分の欄のみ記入して「今まで自分が悪かった。」という内容の手紙と共に相手側に郵送して、2回目の裁判所での答弁の時には「離婚を認めます。親権者原告とします。ただし子供との面会は女の子で思春期もあり、できるだけ多くの時間をお願いいたします。」と書いて提出しました。相手側弁護士は私に「みんないい人なんですよ。本当は」と話しかけてきました。そして「昔の面会交流なんていうものは年に4~5回だったのが最近は月1回になった」と言い「学校に急に来られたらお子さんも驚くでしょう」と言われましたので「子供も来て欲しい。」と書いていましたと伝えると返事はありませんでした。

当事者団体の事や共同親権、養育の話などまるでご存じない様でした。のちに私はとても後悔しました。やはり、他の評判の良い、男性弁護士に相談に行っていたのですが、お金が大変掛かり、結果がどうなるか心配で、簡単に取り下げしてしまったことを今でも後悔しています。子供は離婚後もたまに連絡をくれたりしていましたが、色々なことがあり、同じ当事者の立場のある人に協力してもらおうとしましたが、反対にとんでも無いことを言われて益々逆効果になってしまいました。私も子供に対して、何で気が変わってしまったのかとショックもあり、追い詰めたりするような時もあったので、多分子供にとっては大変辛い心境だったと今では思います。

昨年思い切って、元夫にメールを送り、子供との面会の後に2人きりで今後の件についての話し合いを希望したところ10分くらいで、自分の言い分のみ話をして帰ってしまいました。「こちら側の弁護士は別居時からずっと面会は月1回で良い。と言っていた。」と聞きました。子供も私に対して面会をもっと時間増やしたり、場所を変えたりすることに対して、「ややこしくなるから今のままで良い。」と言いました。私は悔やんでも悔やみきれない辛い気持ちがずっと続いています。

最悪の状況になってしまったことを今でも受け入れられなく思い、何故別居の原因は私のアルコール依存にあったとしても「病気が治ったらやり直す。」と元夫も最初は言っていたのに「お酒止めたことよりも勝手に（私が）行動することが気にいらぬ。」と聞いて、人格否定と、母親であることを否定されたようなとても辛い気持ちになり体重も激減しています。こんな状況がずっと永遠に続くのであれば生きていても仕方がないとさえ思っています。

元夫は離婚後専門家の信頼できる人に今までの経緯を相談していたところ、広汎性発達障害であることがわかりました。物事への凄いこだわり執着などがあり、生まれつきの脳の偏りだと専門家に聞きました。本人もそれは自覚しており、義父からも私は聞いたことがありました。

今後、子供が思春期で女性としても成長していく時期であり、母親と頻繁に拘われないことが将来的にとても心配です。私は自助グループ等でACになる人の多くが、離婚家庭で問題を抱えた過去を持っていたりする体験談を多く聞いています。やはり夫婦は他人でも離婚後も子供の事は話し合いができる様になりたいと思っていますが、相手はととても頑なでしかもその古い考えの弁護士に洗脳されてしまったようで心苦しく感じます。

現在私は子供とは孫程年齢が離れていますし、自分自身持病もあり、あとどのくらい子供の成長を覗られるのかわかりません。話し合いをしようとしてもできない相手側との確執にずっと悩み続けています。確かに12年前迄の自分は正常ではなかったし、そのことで元夫にも子供にも大変迷惑を掛けてきましたが、現在は仕事もして普通に生活をしています。罪は十分に償ったと思っています。

8. 心療内科の医師の事

ずっと夜はアルコールで寝ていた私は、断酒と共に不眠症になり、毎晩寝る前に眠剤と安定剤を2錠ずつ飲んでいましたが、8年以上前から断酒会の紹介で（他の病院からそちらの病院へ変わった）私は初診の時に、ちょうど前回2006年から始まった調停が終わった頃でしたので、今までの経緯を詳しく伝えたところ、先生が「それではあなたはずっとお酒止めても犯罪者の様な扱いですね。もしも今後裁判所で何かありましたらその時はこちらに特別の用紙がありますので診断書を書きます。」と言われて会話をICレコーダーに録音しましたが、2012年に面会調停が始まりすぐにその病院へ行き、診断書の件をお願いしたところ、「そんなこと（キーンとなったなら何をするかわからない人にこちらの生活圏に入ってきて欲しくありません。と相手側から来たメールに書いてあったのを見せたところ）確信できないから、書けません。」と断られました。

再度お願いに行きましたところ、「裁判所に特別な用紙がありますからそちらを持ってきていただいたら書きます。」と言われて裁判所に確認したところ「そんなものはありません。」と言われてしまいました。心療内科の先生にそれも伝えたところ「診断書なんて提出しても裁判であまり効果ありませんよ。」等と言われてしまって私は結局皆、ややこしい事には拘わりたくないのだな・・・と不信感で一杯になりました。

9. 中学校の校長先生の対応

2014年の4月から子供が中学校に進学になるというので、教育委員会の担当者に知人と共に相談に行きました。たまたま担当者の女性は以前中学の先生をされていたというので、

今までの経緯を話し、中学の校長先生に挨拶に行き、相手側には極秘にして貰うことは可能かを確認してから、中学校へ電話をして都合を聞いて、1月に校長先生（私と同じ年齢でした）と教頭先生に全て経緯を伝えて、子供との面会に差し支えるので、くれぐれもこの事は相手側には内緒にして貰いたいとお願いして、その場で了解していただきましたが、結果、相手側に中学校へ私が連絡したことも全て伝わっていて「勝手に学校に連絡しないで下さい。」というメールがきました。後に教育委員会の係りの女性に伝えましたが驚いていました。行政側も全て監護親（保護者の欄に名前のある親）の味方なのだとつくづく考えさせられました。

10. A 弁護士 の件

9年前 2006年1月からお願いしていた弁護士に今回も依頼をしましたが、子供が住んでいる部屋の写真を見せて、一刻も早く部屋が片付き学校で「クサイ」と言われたい様にした。と伝えていました。

私が、学校が始まり、子供の夏休みが終わっても部屋の中は片付かず、以前から相談していましたが、「いずれ、調査官調査をすればわかることですから」という返答で、私が自ら児童相談所に行って、写真を見せる。と提案した際には、「裁判所の調査官などの貴方に対しての印象がきつくみられるので損だから、」とあまり取り合ってもらえませんでした。

（実際私は部屋の写真を撮影した 2012年の7月頃から）児童相談所へ直接出向き、事情を説明していました。

A 弁護士に辞任されてから他の評判の良い男性弁護士の所へ相談に行って、その件を話すと「調停の段階では、子供の心情のみです。」と言われました。

調査官にも調査が終わってからの調停の時に、「子供の住居について全く書かれていないですね。」と言うと、「上からの指示です。弁護士に聞いて下さい。」と言われました。以前の文章の中にも書きましたが、A 弁護士にそのことを追及すると「私は明日から出張です。忙しいので、辞任することについてのお返事は2日後迄に連絡下さい。」と一方的に電話を切られてしまいました。